

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日: H16.11.7
- 構成員数: 31人
- 全体構想作成日: H18.3.31
- 実施計画作成日: H18.10.30
(R3.4月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話: 082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

活動報告

八幡湿原に関わる本校の取り組み 【報告者】 広島新庄中学・高等学校 統括教頭 平野 正

本校は、北広島町にある今年112年を迎えた中高一貫校です。中1で国天然記念物「大朝のテングシデ」、中2で国特別天然記念物「オオサンショウウオ」、中3で「八幡湿原」などを教材に、生物多様性の保全を柱とした自然科学プログラムを実施しています。

今年、この取り組みが認められ、5月16日に令和3年度野生生物保護功労者表彰「林野庁長官感謝状」、11月24日に第55回全国野生生物保護活動発表大会「林野庁長官賞」を受賞(東京・環境省で活動発表)させていただきました。これまでお世話になった皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしく願います。

今回は、八幡湿原に関わる本校の取り組みをご紹介します。



活動発表会で発表する生徒：環境省にて

～八幡湿原に関わる本校の取り組み～

【5月3日】 中3八幡湿原とカスミサンショウウオ研究チーム(2名)が内藤順一先生(西中国山地自然史研究会副理事長)ご指導のもと、八幡湿原において、イワミサンショウウオの産卵調査をしました。特別に卵を持ち帰らせていただき、研究をスタートしました。



イワミサンショウウオの産卵調査

～八幡湿原に関わる本校の取り組み～

【7月7日】 中3全員が、白川勝信先生(高原の自然館主任学芸員)を講師に迎え、SDGs、生物多様性、八幡湿原自然再生事業について学びました。

【10月13日】

中3全員が、白川先生とトレッキングガイドさんのご指導のもと、芸北高原の自然館、八幡湿原でのフィールドワークを行い、動植物の観察や再生事業について学びました。生徒からは、「心に残っていることは、いろいろな生物が住める場所を作ることです。偏った環境を作ることでは駄目だとわかりました。」などの感想が聞かれました。講座後、生徒は八幡湿原への提案を含むレポート作成をしました。

また研究チーム(2名)は、全体会のあと、観察用に卵から育てたイワミサンショウウオ10個体をもとの湿原に帰しました。生徒からは「少し寂しいけど、元気に育てほしい。」などの声が聞かれました。研究チームは現在、残りの7個体(1年目)と先輩から引き継いだ1個体(3年目)を育てながら研究を続けているところです。

これらの研究成果は、課題研究発表会(2月10日)、自然科学プログラム発表会(3月12日)などで報告する予定です。



白川勝信先生の特別講義



イワミサンショウウオの幼生を帰す



トレッキングガイドさんとフィールドワーク